

2025 年 11 月発行

大学の就職・キャリア支援活動に関する調査

学生優位の売り手市場が続く 2026 年卒者の就職戦線。一方で、年々進む早期化や長期化、就職活動スタイルの多様化などにより、大学には個々の学生に応じたきめ細やかな支援が求められている。こうした中、就職支援の現場ではどのような課題をもち、対策に取り組んでいるのだろうか。

株式会社キャリタスでは、全国の大学の就職課・キャリアセンターを対象に、2026 年卒者の就職活動状況、2027 年卒者への就職支援、インターンシップ等への意見など、多岐にわたる項目を調査し分析した。

【主な調査内容】

1. 2026 年卒者の就職活動状況

- [1] 内定状況
- [2] 求人状況の変化
- [3] 新卒採用市場の見方
- [4] 学生からの相談
- [5] 2026 年卒者の就職支援の課題

2. 2027 年卒者への就職支援

- [1] 就職ガイダンスの実施状況
- [2] 就職ガイダンスの実施形式
- [3] 就職ガイダンスの参加状況
- [4] 業界研究・企業研究セミナーの実施状況
- [5] 企業からのアプローチ
- [6] 学生の就職意識に対する所感

3. インターンシップ等^(※)のプログラム

- [1] インターンシップ等の求人状況
- [2] 学生の参加状況
- [3] インターンシップ等に対する見解

4. 低学年向けキャリア支援

- [1] 実施状況
- [2] 実施内容

※「インターンシップ」に限定せず、1 日以内のプログラム等も含めて尋ねた

《調査概要》

調査対象：全国の大学の就職・キャリア支援担当部署

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2025 年 9 月 1 日～26 日

回答学校数：412 校

*「大学 3 年生」は 6 年制の 5 年生と修士 1 年生を含みます。
「大学 4 年生」は 6 年制の 6 年生と修士 2 年生を含みます。

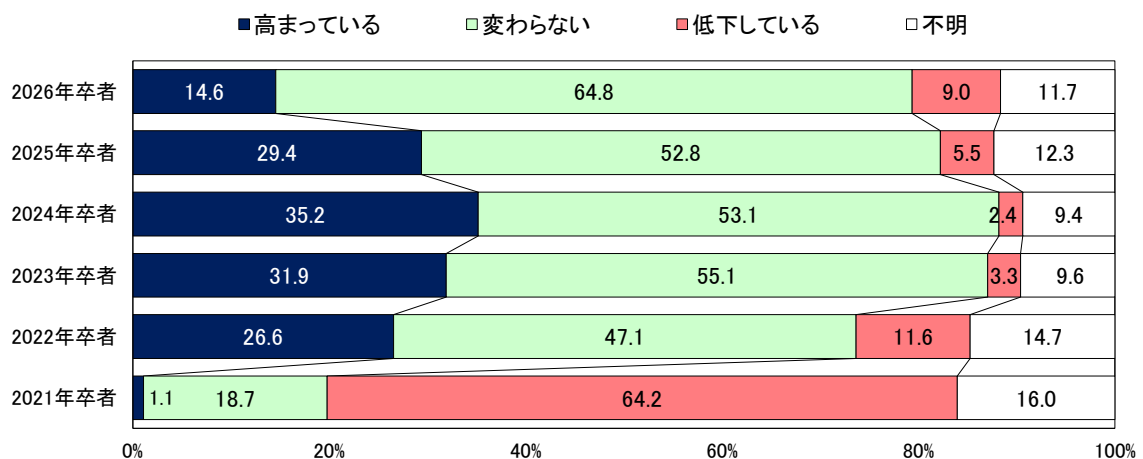
国公立	私立	合計				
94校	318校	412校				
北海道・東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄	合計
41校	149校	84校	78校	31校	29校	412校

1. 2026 年卒者の就職活動状況

〔1〕内定状況

まず、2026 年卒者（現 4 年生）の内定状況について尋ねた。前年度よりも「高まっている」という回答（14.6%）が、「低下している」（9.0%）を上回る。5 年前の 2021 年卒者ではコロナ禍の影響で「低下している」が 6 割を占めたが（64.2%）、翌年からは増加に転じ、その後も内定状況の高まりを実感する大学の増加傾向が続いている。ただし、「高まっている」と「低下している」の割合の差は縮小しており、内定率が高止まりしていることがうかがえる。

<内定状況(前年度と比べて)>

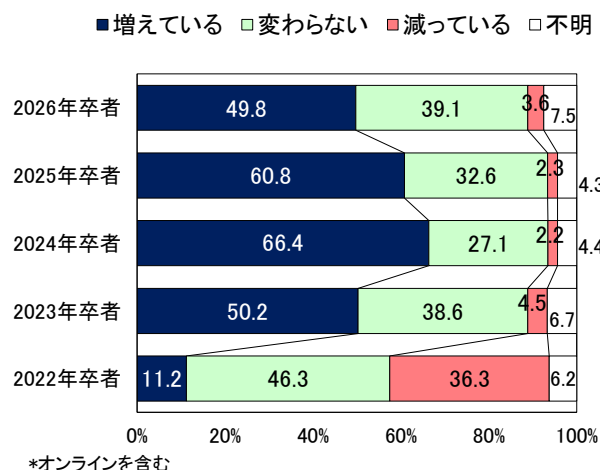


〔2〕求人状況の変化

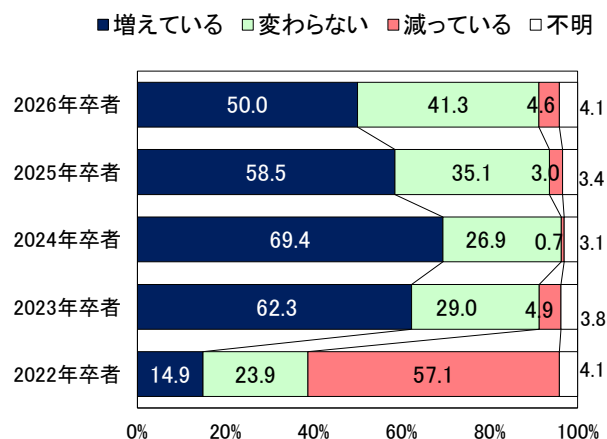
2026 年卒者の求人状況に関し、前年度からの変化を尋ねた。求人数が「増えている」と回答をした大学は約半数（49.8%）。4 年連続で「減っている」（3.6%）を大幅に上回る。

企業の来訪数は、前年度より「増えている」が 5 割（50.0%）に上り、「減っている」という回答はわずか（4.6%）。近年は採用難が続いており、大学との関係を強化することで採用を成功させたいと考える企業も少なくないのだろう。

<求人数の変化>



<企業の来訪数の変化>

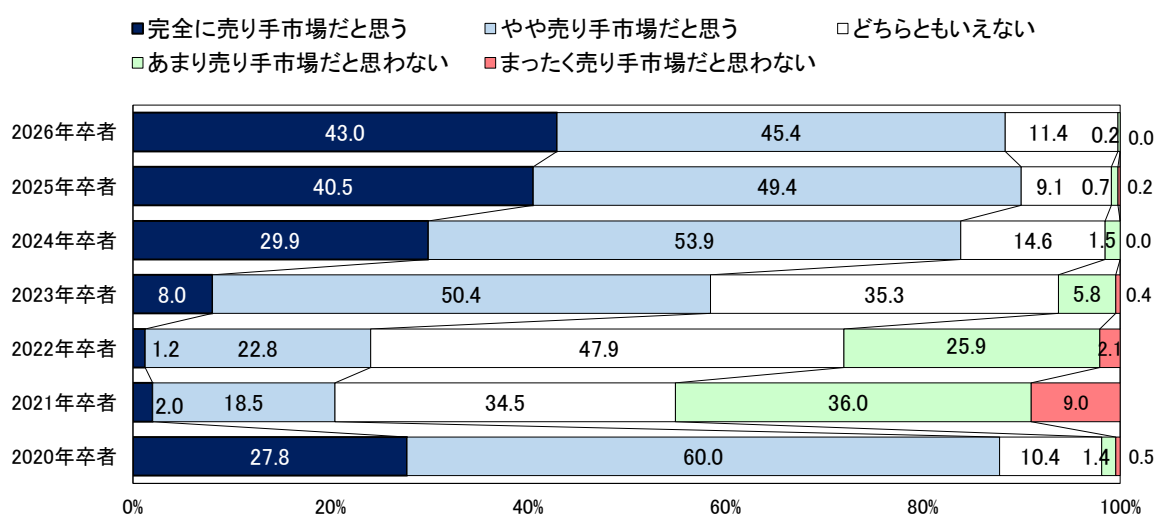


【3】新卒採用市場の見方

就職・キャリア支援担当者として、今年の就職環境をどのように見ているか尋ねた。学生に優位な「売り手市場」との見方がおよそ9割（計88.4%）。「完全に売り手市場」の割合は、この3年で大きく増加していたが、今年さらに増加した（43.0%）。一方の「売り手市場だと思わない」との回答は、前年に続き1%未満（計0.2%）。

寄せられたコメントを見ると、複数内定を得ている学生が増えた点や企業の求人募集期間が長期化している点から、売り手市場が続いていることを実感する大学が増えたことがうかがえる。

<新卒採用市場についての考え>



■新卒採用市場についての考え

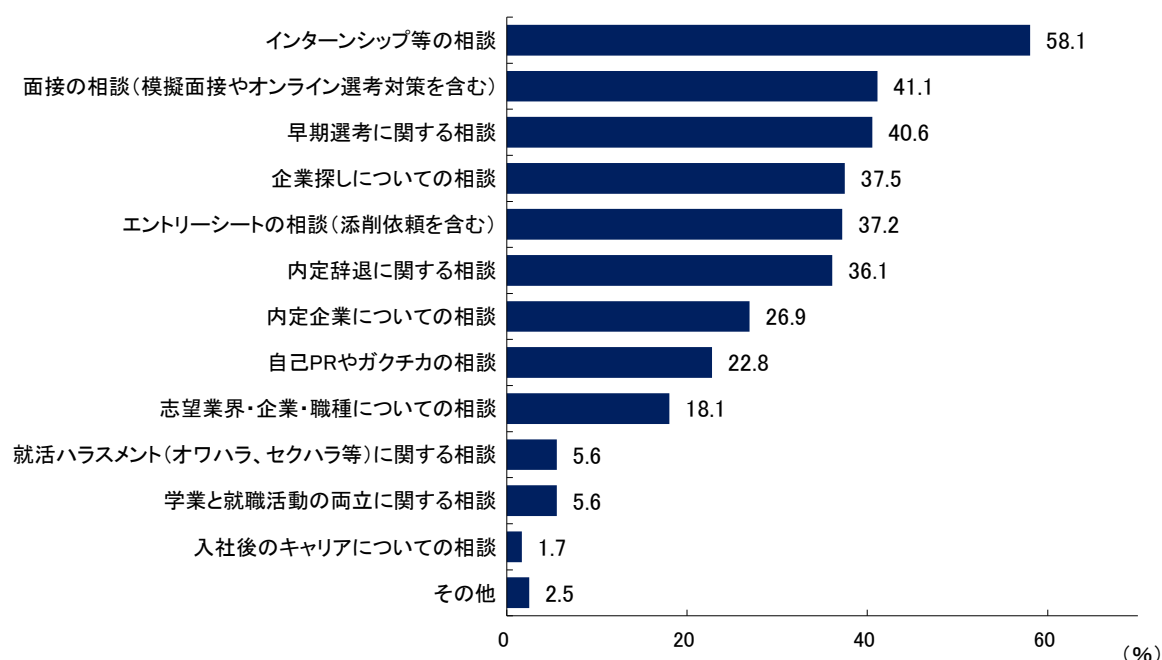
- 学生一人当たりのエントリー社数が少なく、複数内定を保持していた学生が多い。 <私立大学>
- 「以前より好待遇の勤務条件を提示しても応募が来ない」、「内々定を出しても辞退者が多い」との声を聞く。 <私立大学>
- 企業の動きが早くなっている。他の企業に採用が決まる前に早めに優秀な学生を確保したいというのが伝わる。 <公立大学>
- 県内の大手企業、行政職、公安職 いずれも採用に苦慮している様子。 <私立大学>
- 企業の来訪数が多く、学生と直接的な接点を持てるよう学内企業説明会への参加希望企業が年々増えている。 <私立大学>
- これまで地元企業による来訪が中心でしたが、近年は県外企業の来訪が増加しています。 <私立大学>
- 企業の採用活動時期が、例年なら終了していた時期以降も継続し、採用計画人数に達するまで年間を通じて実施されている。 <公立大学>
- 理系は好調であるが、文系は低調だと感じる。 <私立大学>
- 資格取得を前提とした職種はほぼ横ばい。人員不足が強い業界・職種が求人数を押し上げている。 <私立大学>
- 採用は増えているが採用基準自体は下がっていない。 <公立大学>
- 売り手市場ではあるが、面接で自社とのマッチングの確認や入社覚悟を問われることが増え、準備をせずに臨むと選考落ちする業界が増えていると思う。 <私立大学>
- 売り手市場を見こして動き出しの遅い学生は、卒業間際まで活動が続けるケースも見受けられるため、計画的な準備が重要であることを実感している。 <私立大学>

〔4〕 学生からの相談

学生からの相談について、前年度より増えたものを尋ねた。「インターンシップ等の相談」が圧倒的に多く、6 割弱が選んだ（58.1%）。事前選考対策についての相談や、低学年からの相談が増えたという大学もあるようだ。次いで「面接の相談」（41.1%）、「早期選考に関する相談」（40.6%）が続く。

「内定辞退に関する相談」（36.1%）、「内定企業についての相談」（26.9%）など、内定を得た後の相談が増えている大学も少なくない。複数の内定を得る学生が増えたことで、入社企業の選び方や辞退方法などの相談も増えていると見られる。

＜学生からの相談で前年度より増えた内容＞



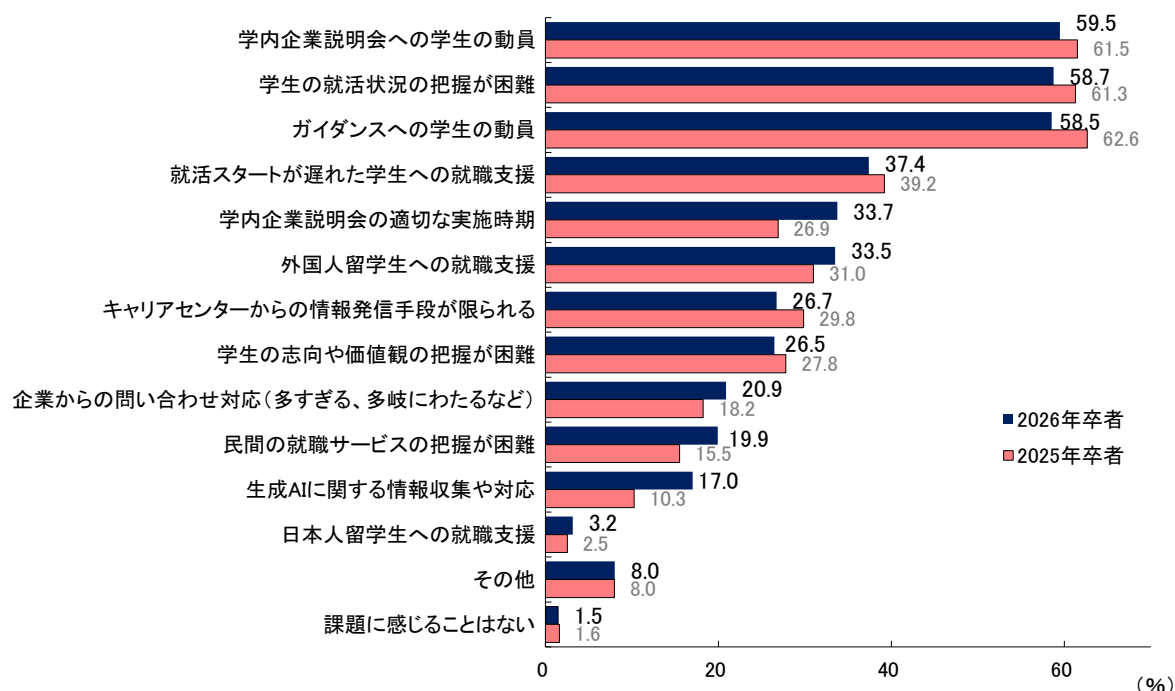
■学生からの相談内容の特徴や変化

- インターンシップに関するエントリーシート、面接の相談が増えた。 <公立大学>
- インターンシップの相談が低学年（1・2年生）及び3年生も増えた。 <私立大学>
- 志望動機などの添削後に、再度の志望動機添削など面接練習も複数回を希望するなど心配性な学生が増えたように感じている。 <私立大学>
- 早期選考に対しての準備不足から不安を抱えている学生が目立つ。選考に向けての意識やモチベーションをあげるための指導を含めた相談が多い。 <私立大学>
- 業界がまだ決まっていない学生からは「業界の特徴や代表的な企業をどう調べればよいか」といった質問が増えており、まず情報の集め方を知りたいというニーズが強まっている。 <私立大学>
- 複数内定を獲得している学生が増加傾向。辞退の連絡方法や注意事項の質問が昨年よりもやや多く感じた。 <私立大学>
- 内定後、承諾を促されるという相談が増えた。簡単に内定がでしてしまうため学生も回答に困っているようです。 <私立大学>
- 採用活動の早期化や売り手市場の継続により、選択肢が豊富になった一方で、よりよい選択を求めてかえって悩みを深める学生が増えた。 <公立大学>

【5】2026 年卒者の就職支援の課題

2026 年卒者の就職支援をする上で課題に感じることを尋ねた。「学内企業説明会への学生の動員」(59.5%)、「学生の就活状況の把握が困難」(58.7%)、「ガイダンスへの学生の動員」(58.5%)の3項目を選ぶ大学が多い。全体的に前年調査よりポイントが下がっているが、「学内企業説明会の適切な実施時期」は、6.8ポイント増加。学生の就活時期やスタイルの多様化などにより、学生とのつながりが持ちづらく、様々な支援実施のための接点強化に課題を感じる大学が多いようだ。

＜2026年卒者の就職支援の課題＞



■課題に感じていること

- 学内企業説明会への参加企業は増加しているものの学生の参加率が低下しており、その結果として説明会の実施回数も減っていること。 <私立大学>
- 年々学生との連絡が取りづらくなっている。進路を既に決定済だが報告していない者と、決定しておらず就活に困難を抱えている学生との仕分けがなかなかできない。 <公立大学>
- ガイダンスへの学生の動員に苦労しており、学生との接点創出が難しいと感じている。 <私立大学>
- 早期から動き出している者とスタートが遅れた者との対応の分け方。 <私立大学>
- 低学年からの就職支援の方法と効果的な実施時期の選定が課題。 <私立大学>
- 企業の動きも学生の動きも多様化・分散化しており、マスでの支援や情報提供に難しさがある。 <私立大学>

■採用活動を行う企業に対しての意見や要望

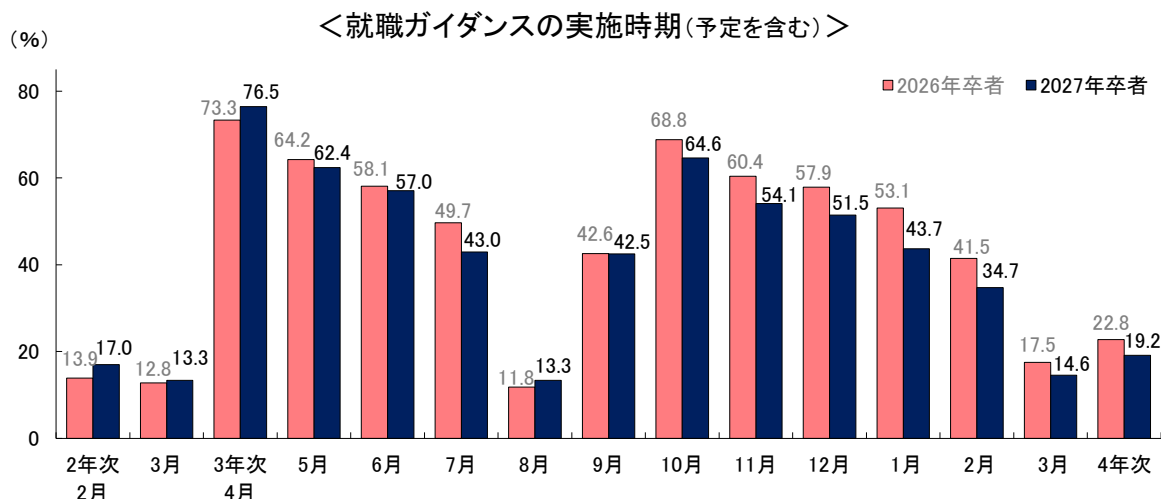
- 来訪する場合は、事前に連絡をしてほしい。 <私立大学>
- 「三省合意」は遵守していただきたいです。 <公立大学>
- O・B・O・G情報をもっと登録いただきたい。 <私立大学>
- 初任給を基本給、手当、固定残業給などにしっかり分けて明示してほしい。 <私立大学>
- 留学生の採用実績やビザ取得などの詳細情報が掲載されているとありがたい。 <私立大学>
- 過度な早期選考は控え、学生が学業に専念できるように配慮をお願いします。 <私立大学>

2. 2027 年卒者への就職支援

〔1〕就職ガイダンスの実施状況

ここからは、2027 年卒者（現 3 年生）への就職支援についてのデータを紹介したい。

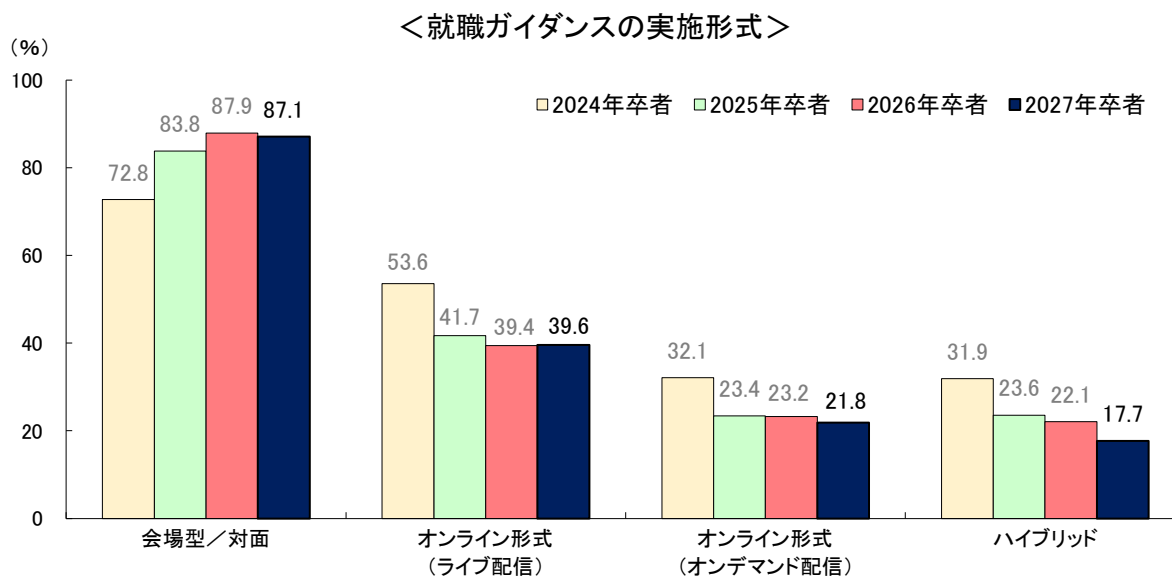
まず、就職ガイダンスの実施時期に関して尋ねた。3 年次 4 月が最も多く、7 割超の大学が選んだ（76.5%）。また、前年度と比較すると、3 年次の 4 月以前の実施率は増加。反対に、10 月以降は減少しており、ガイダンスの実施を早めた大学が一定数あったことがうかがえる。



* オンラインを含む

〔2〕就職ガイダンスの実施形式

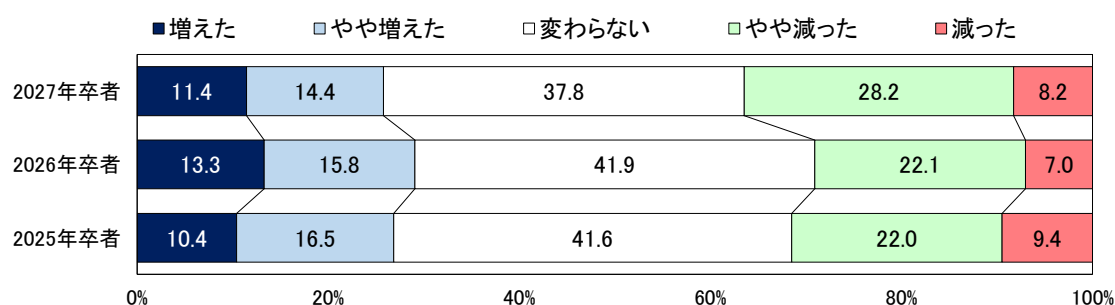
就職ガイダンスの実施状況を形式別に尋ね、4 年分を比較した。今年も「会場型／対面」が最も多く、9 割近くが選んだ（87.1%）。オンライン形式もほぼ前年と変わらず約 4 割で（39.6%）、2 年続いた減少傾向は下げ止まりとなった。対面型が主流ではあるものの、学生数の多い大学では、オンラインの実施率も高く、大学の環境や学生のニーズに合わせ、様々な形式で実施していることがうかがえる。



前期に実施したガイダンスの学生の参加が、前年度より「増えた」と回答した大学は 25.8%（「増えた」「やや増えた」の合計）。「減った」との回答は計 36.4%で、ガイダンスへの参加学生数が「減った」と感じている大学の方が多い。前年調査と比較しても「減った」という回答が増加した。

先に見たように、26 卒者のガイダンスの動員に課題を持つ大学は多かったが、今年度も同様の傾向が続いていると見られる。

＜就職ガイダンスの参加状況＞

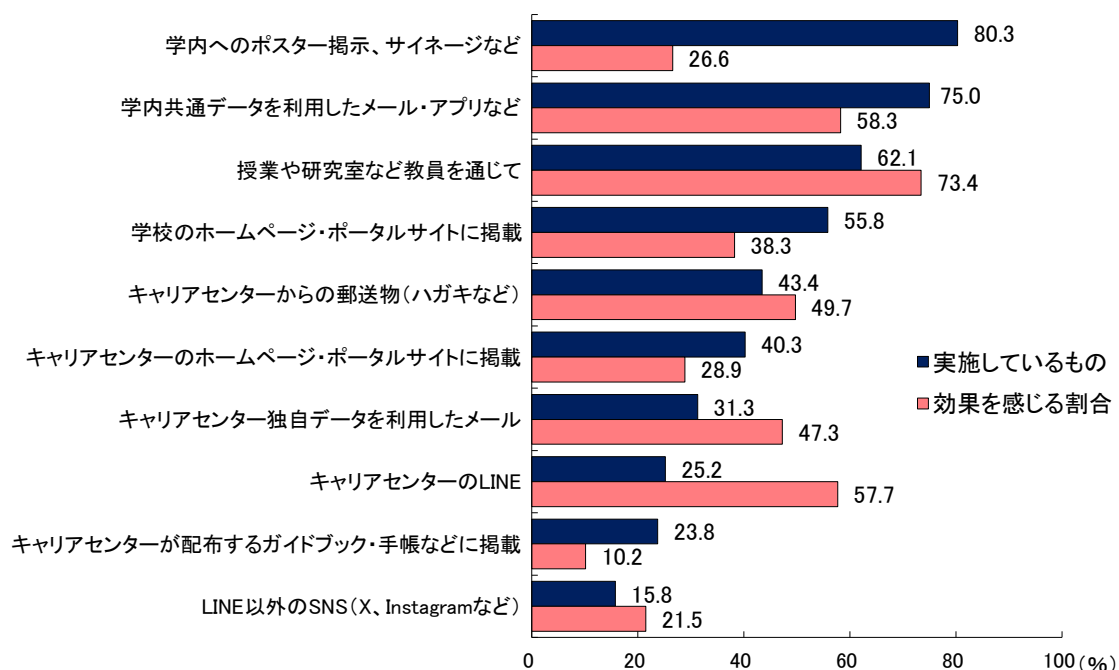


次に、学生へのガイダンスの告知方法と、その中で効果を感じるものについて尋ねた。

実施率は「学内へのポスター掲示、サイネージなど」（80.3%）、「学内共通データを利用したメール・アプリなど」（75.0%）、「授業や研究室など教員を通じて」（62.1%）の順に多い。

実施しているものを分母に、効果を感じる割合を算出したところ、「授業や研究室など教員を通じて」が最も高く、7割を超える（73.4%）。次いで「学内共通データを利用したメール・アプリなど」（58.3%）、「キャリアセンターのLINE」（57.7%）が続く。

＜就職ガイダンスの告知方法＞

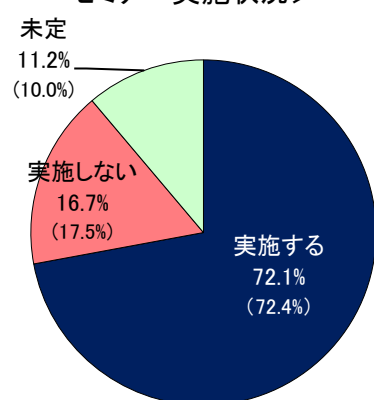


〔4〕 業界研究・企業研究セミナーの実施状況

採用広報解禁前の業界・企業研究セミナー（以下学内セミナー）の実施予定について尋ねたところ、「実施する」が7割強を占めた（72.1%）。実施形式を尋ねたところ、「会場型／対面」が8割を超えて圧倒的に多い（85.9%）。前年調査より4.8ポイント増加した一方、オンラインのものは、いずれの形式でもポイントが下がっており、対面での実施割合がさらに増加する見込みだ。

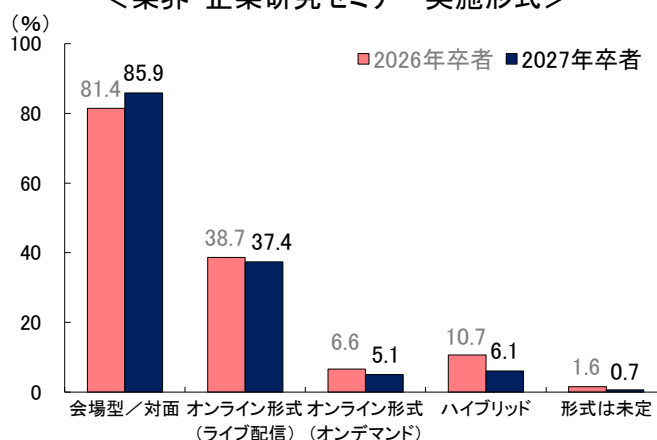
実施時期（予定を含む）をすべて選んでもらったところ、採用広報解禁直前である「3年次の2月」が最も多いものの、前年調査と比べると大きく減少（53.8%→43.8%）。3年次の6月以前と10月のポイントが増加しており、早い時期での開催が増えていることが読み取れる。

＜3月より前の業界・企業研究
セミナー実施状況＞



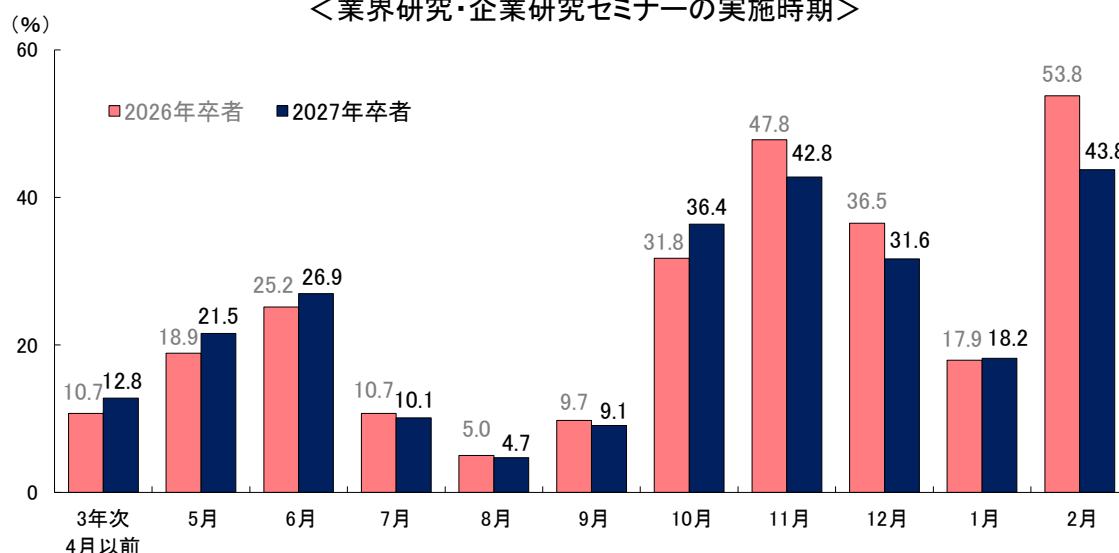
* オンラインを含む
* ()内は前年同期調査の数値

＜業界・企業研究セミナー実施形式＞



* セミナー実施予定の大学が回答

＜業界研究・企業研究セミナーの実施時期＞

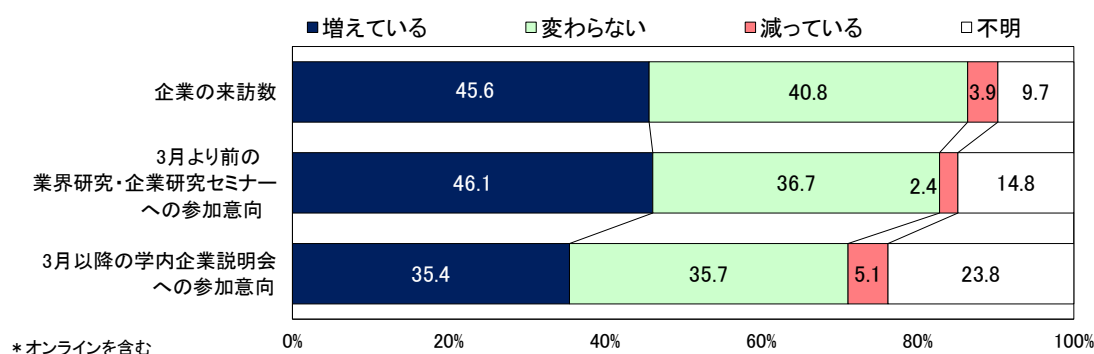


* オンラインを含む
* セミナー実施予定の大学が回答

【5】企業からのアプローチ

企業の来訪数や、学内セミナー、学内企業説明会への参加意向の増減について尋ねた。いずれも前年より「増えている」が「減っている」を大幅に上回る。そのうち、企業の来訪数、3月以前の学内イベントへの参加意向はいずれも「増えている」が4割を超え、早い時期から大学を通じて学生へPRする機会を得たいという企業が増えているようだ。ただし、3月以降の学内企業説明会については、「不明」との回答が2割を超えており、学生の参加率が減少傾向にある等の理由で、参加を決めかねている企業もあると推測される。

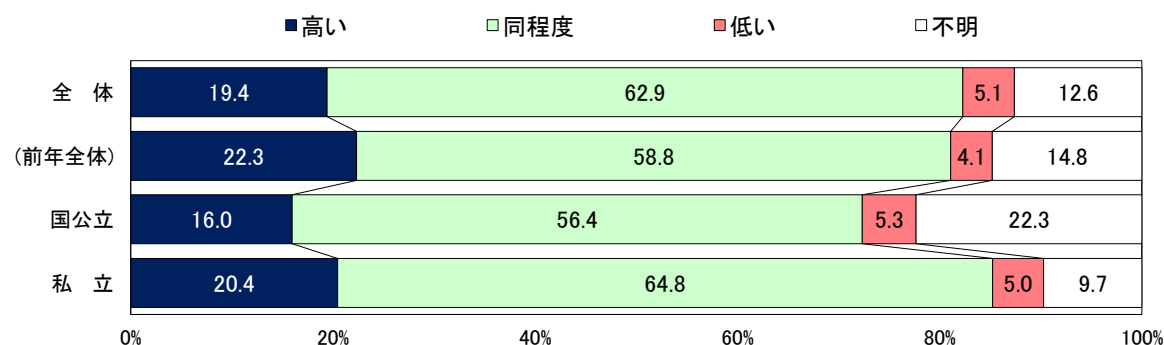
＜2027年卒者に対する企業のアプローチ（前年度と比べて）＞



【6】学生の就職意識に対する所感

2027年卒者の就職に対する意識について所感を尋ねところ、前年度の学生に比べ「高い」(19.4%)が「低い」(5.1%)を大きく上回った。ガイダンスの参加状況やインターンシップ等への参加意向などから学生の意識の高さを感じとっている大学担当者が多いようだ。その一方で、売り手市場と言われていることにより危機感が低下していることを懸念する声も見られた。

＜2027年卒者の就職に対する意識（前年度と比べて）＞



■2027 年卒者の就職に対する意識について

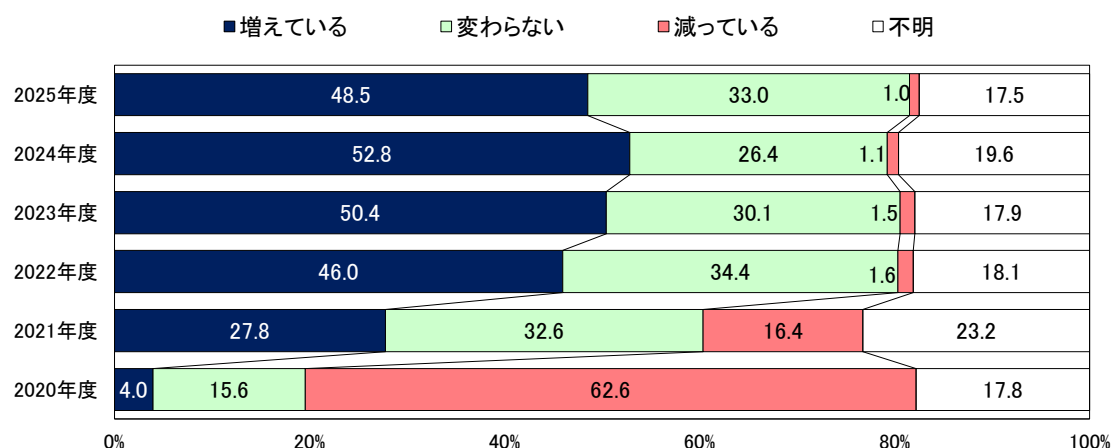
- 昨年度と比較し前期ガイダンス参加人数が増加したため、早期に動く学生が多いと感じる。 ＜公立大学＞
- 就活に効果的な資格取得講座や実践講座への参加率が高まっている。 ＜私立大学＞
- 低学年時から窓口相談・個別相談を希望する学生が増えている。 ＜公立大学＞
- 体感では26卒よりインターンシップへの参加が多いように感じるが、就活の早期化という外部的要因によるもので、本質的な意識の違いがあるようには感じない。 ＜私立大学＞
- 積極的に情報収集をしている学生がいる一方で、何をしたらよいかわからないという学生の相談も多く、二極化の傾向は前年度と同等と考える。 ＜私立大学＞

3. インターンシップ等（※）のプログラム

〔1〕インターンシップ等の求人状況

今年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）のインターンシップ等の求人について尋ねたところ、およそ半数の大学が「増えている」と回答した（48.5%）。経年で見ると、コロナ禍によるインターン実施企業の大幅な減少から、2021 年度に増加に転じて以降は増加傾向が続いている。

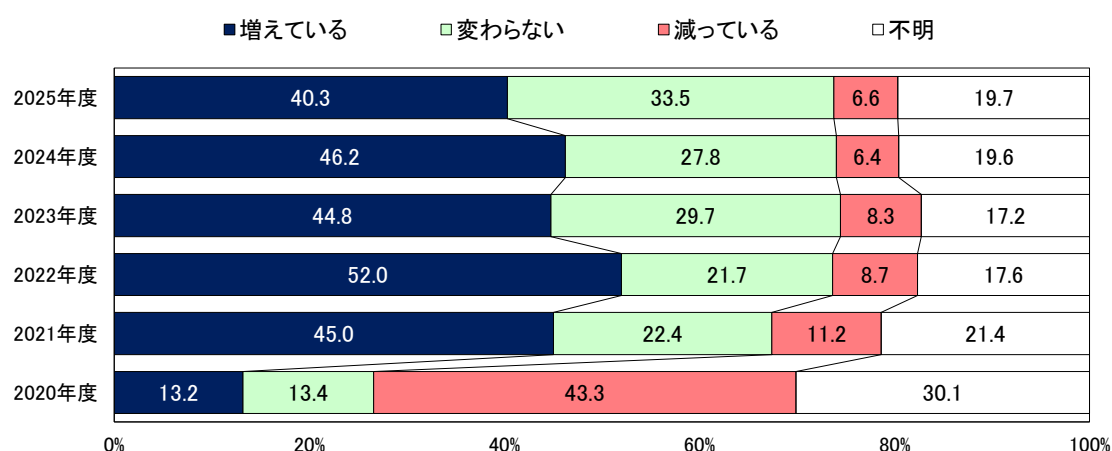
＜企業からのインターンシップ等求人状況（前年度と比べて）＞



〔2〕学生の参加状況

次に、学生の参加状況を見てみる。参加が「増えている」と回答した大学はおよそ 4 割（40.3%）で、「減っている」（6.6%）を大きく上回る。5 年連続で増加が減少を上回っており、参加学生の増加傾向が続いている。インターンシップ等のプログラムを実施する企業が増加したことや、実施時期の早期化に伴い、早い時期から参加意欲を高めた学生が多かったのだろう。

＜学生のインターンシップ等参加状況（前年度と比べて）＞



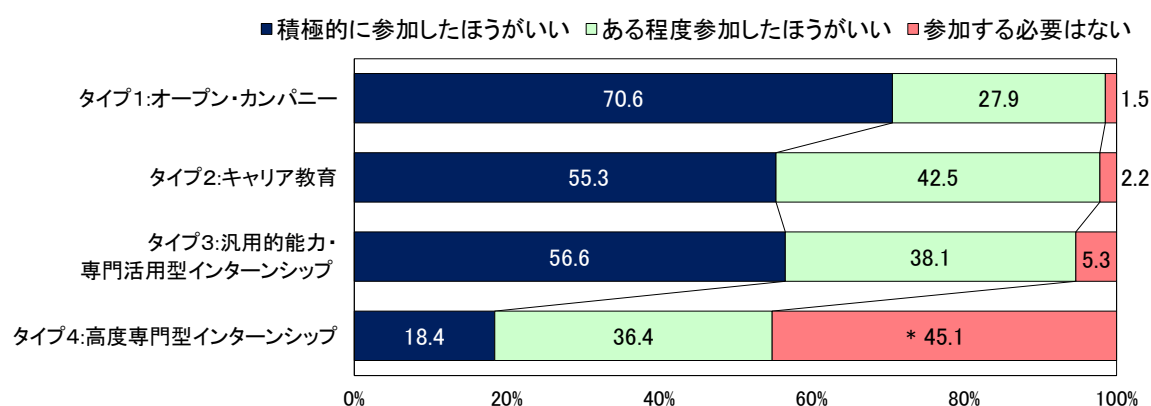
※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた

【3】インターンシップ等に対する見解

インターンシップ等のプログラムへの参加に対する大学側の意見を、キャリア形成支援活動の 4 類型に分けて尋ねた。タイプ 1 からタイプ 3 は、「積極的に参加したほうがいい」「ある程度参加したほうがいい」が合わせて 9 割を超える。就業意識の涵養、今後のキャリアを考えるきっかけとして学業に支障のない範囲で積極的に参加してもらいたいという声が多い。

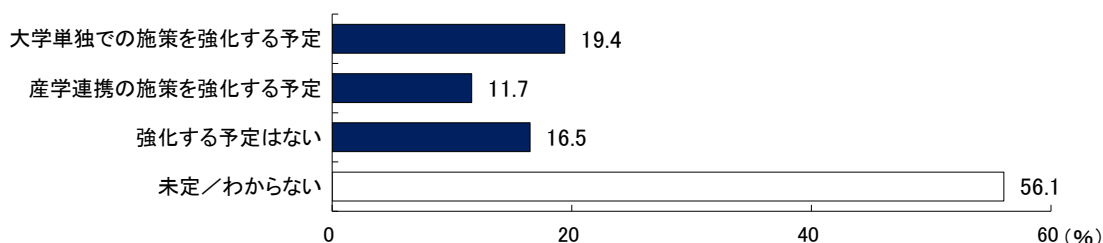
タイプ 2：キャリア教育については、「大学単独での施策を強化する予定」という大学が 19.4%、「産学連携の施策を強化する予定」は 11.7%。検討中の大学も少なくないようだ。

＜学生のインターンシップ等のプログラムへの参加についての考え＞



*タイプ4は「参加する必要はない／対象者がいない」として調査

＜タイプ2:キャリア教育の施策強化予定＞



■インターンシップ等のプログラム参加についての意見

- タイプに関わらず、学業に支障のない範囲で積極的に参加してほしいと考える。 ＜私立大学＞
- ミスマッチを防ぐ機会は多ければ多い方がよいと考える。そのため期間の長短に関わらず企業と触れ合う機会を多く作り、自分の中の正解を見つけてほしい。 ＜公立大学＞
- タイプ 1～4 のプログラムの中から、参加する意義・必要性を確認したうえで、その時自分にとって適切と考えるものを選択すべきと考えています。 ＜私立大学＞
- 1 DAY のオープン・カンパニーなどは夏休み期間中でもインターンシップの合間を縫って参加できるため、いろんな企業の雰囲気を見るべきだと考える。 ＜公立大学＞

■タイプ 2：キャリア教育の施策について

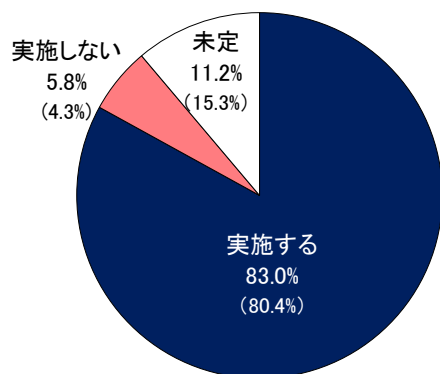
- 企業や官庁に勤めている方を学内にお招きして、新鮮な情報を学生に届けられるようにしたいと考え動いています。 ＜私立大学＞
- 外国人留学生の日本での就職を支援する取り組みを行いたい。 ＜公立大学＞
- OB・OG による業界・会社説明会、座談会の実施、業界横断、職種横断型プログラムの実施。 ＜私立大学＞

4. 低学年向けキャリア支援

〔1〕実施状況

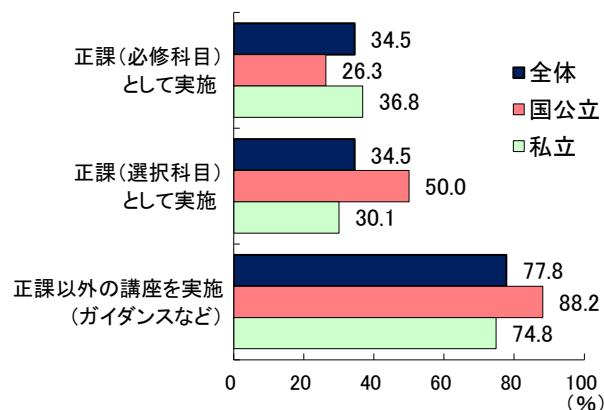
低学年（2028 年卒以降）向けに今年度のキャリア支援を「実施する」大学は 8 割強（83.0%）。実施形式は、ガイダンスなどの「正課以外の講座を実施」が 77.8%と圧倒的に多く、特に国公立では 9 割近い（88.2%）。一方、私立大学では「正課（必修科目）」が 3 割台後半（36.8%）に上り、力を入れている様子が見える。

＜低学年へのキャリア支援実施状況＞



*（ ）内は前年同期調査の数値

＜低学年へのキャリア支援実施形式＞

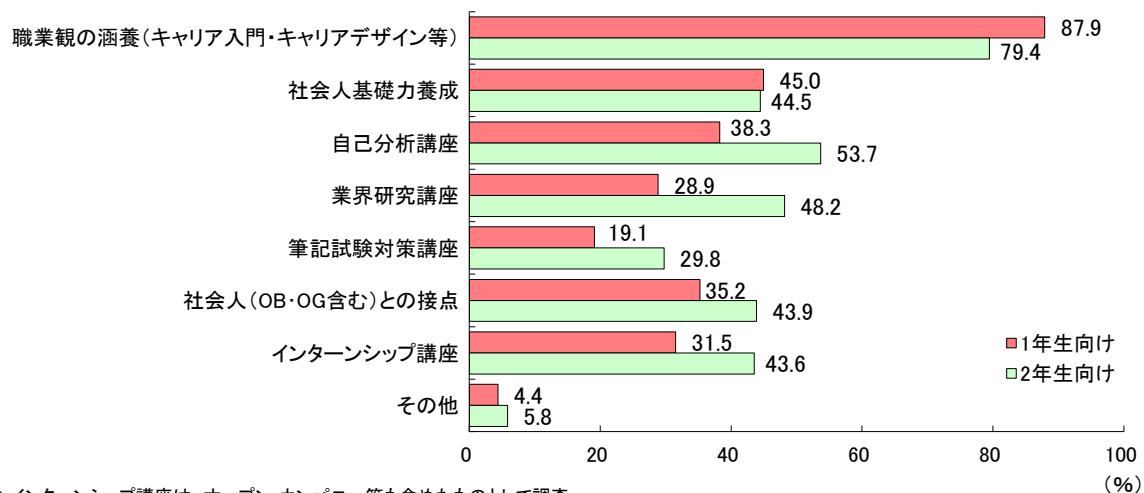


* 低学年向けのキャリア支援実施大学が回答

〔2〕実施内容

実施内容を学年別に尋ねた。「職業観の涵養」が、1・2 年生ともに最も多い。特に 1 年生向けでは 9 割近くの大学で行われている（87.9%）。2 年生になると「自己分析講座」「業界研究講座」など、就職活動を見据えた、より実践的なプログラムも多く実施されているようだ。

＜低学年の学生に実施している支援＞



* インターンシップ講座は、オープン・カンパニー等も含めたものとして調査

■低学年向けキャリア支援について

- | | |
|---|--------|
| ○低学年向けに自身のキャリアについて考える契機としたい。 | ＜公立大学＞ |
| ○就職活動の早期化に備えるとともに、自己理解を深め、学修意欲の向上につなげる。 | ＜私立大学＞ |
| ○働くこととはどういうことか、そのために学生生活をどう送るべきかを伝えている。 | ＜私立大学＞ |
| ○大学の就職支援システムを理解してもらうため、1 年生に向け初年次キャリア支援を実施する。 | ＜公立大学＞ |